



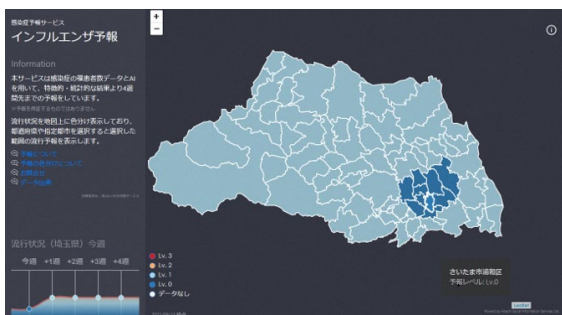
事業名

流行予測AIを活用した「感染症予報サービス」の社会実装及びMaaS連携

事業概要

①流行予測AIを活用した「感染症予報サービス」[AI]

- 「日本医師会ORCA管理機構」の罹患患者数統計データ(オープンデータ)と日立のAI技術の知見を活用した機械学習を用いた予測エンジンによる、インフルエンザ等の感染症の流行状況の予報を行うシステム
- さいたま市の情報媒体を活用し、流行予測と併せて予防関連情報も配信し、感染症予防のための行動変容を促す
- 将来的には、インフルエンザ以外の感染症への対応も検討



令和3年度実証画面（予報範囲：埼玉県全域）



さいたま市公式LINEより配信画面



さいたま市の公式X（旧Twitter）より配信画面

地域課題・目指す将来像

解決すべき地域課題

- 感染症の流行による経済損失や社会保障費増の抑制
⇒「感染症は予報をもとに予防していく」という新しいライフスタイルにより、市民QOL向上、市民満足度向上

目指すべき将来像

- 上質な生活都市の実現に向け、市民生活を構成する様々な分野において公・民・学が連携し、AI・IoT・データ等を活用した新たな生活支援サービスを提供することにより、市民のQOL向上につなげていく

事業の体制（名称：さいたま市未来技術地域実装協議会）

地方公共団体	さいたま市
国（★は現地支援責任者）	★内閣府（地方創生推進事務局）、厚生労働省（関東信越厚生局）、経済産業省（関東経済産業局）、国土交通省（関東運輸局）
民間事業者	(株)日立製作所、(株)日立社会情報サービス、損害保険ジャパン(株)

KPI

主なKPI・関連指標	実績値（目標値）	指標設定・目標値設定のポイント（工夫・示唆等）
サービス認知率	実証予定なし（2023年） （30%（2023年））	過年度はさいたま市インターネット市民意識調査で、サービスの認知状況などを調査
予報との連携サービス数	0件（2023年） （1件（2023年））	流行予報と連携した民事業ベースでのサービスの提供に向け、都市OS運営事業者との意見交換を実施するものの、具体的なサービス実装には至らなかった

①流行予測AIを活用した「感染症予報サービス」【AI】

取組の詳細

【将来像】

- 上質な生活都市の実現に向け、市民生活を構成する様々な分野において公・民・学が連携し、AI・IoT・データ等を活用した新たな生活支援サービスを提供、市民のQOL向上を目指す

【地域課題】

- 「感染症は予報をもとに予防していく」という新しいライフスタイルによる市民QOL向上、市民満足度向上
- 感染症予報による予防への行動変容による経済損失（社会保障費）の抑制

【技術的な特徴】

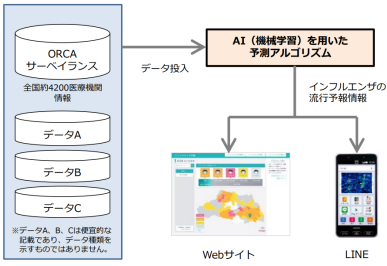
- 「日本医師会ORCA管理機構」の罹患患者数統計データ(オープンデータ)と日立のAI技術の知見を活用した機械学習を用いた予測エンジンによる、インフルエンザ等の感染症の流行状況の予報を行う

【推進体制】

- 民間事業者（㈱日立製作所、㈱日立社会情報サービス、損害保険ジャパン㈱）と連携し、事業を推進
- 2022年度からはさいたま市未来技術地域実装協議会を立ち上げ検討を実施

【資金調達方法】

- 事業実施に際し、特段の経費の支出はなし



サービス概要

各年度の実績とフェーズ（検討課題）

	分類	2021年度	2022年度	2023年度
取組実績	-	- 前年度実証終了後、住民へのアンケートを実施 - 予報情報配信の対象エリアを埼玉県全域に拡大 - 市民向けに季節性インフルエンザを対象とした流行予報サービスを実施するとともに、市公式LINEアカウント等を活用した予報情報等を発信 - 民事業者2社との連携による実証（ニュース配信、自社製品販促）	- 前年度実証終了後、住民へのアンケートを実施 - 参画事業者との連携により全国の予報情報を提供 - 市民向けに季節性インフルエンザを対象とした流行予報サービスを実施するとともに、市公式X（旧Twitter）アカウントから予報情報等の発信 - 大型施設内店舗において、民事業者同士の連携による実証（自社製品の販促）	- 前年度実証終了後、住民へのアンケートを実施 - 流行予報と連携した民事業ベースでのサービスの提供に向け、都市OS運営事業者との意見交換を実施
	フェーズ（検討課題）	提供エリアの拡大		
		ニーズの明確化		
		認知度・社会受容性の向上		
フェーズ（検討課題）	地域			
	技術			
	体制	推進体制の構築		
	資金			

成果・今後の予定

3 年間で得られた成果

- 民間事業としてサービス実装が達成された

次年度以降の取組（予定）

- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、初めてのインフルエンザ流行期であることから現状に則した最適なサービス発信の検討
- スマートシティサービス構築を目的とする、任意コンソーシアムにおける連携支援

① 流行予測AIを活用した「感染症予報サービス」【AI】

各フェーズ（検討課題）において工夫したこと、気をつけたこと

提供エリアの拡大

- サービス開始当初は予報エリアがさいたま市域のみであったが、埼玉県との協力やサービス事業者のプロモーション活動により、2021年度には埼玉県全域、2022年度は全国と、予報の対象エリアを拡大することができた

ニーズの明確化

- 各年度のインフルエンザ流行期中に実証実験を行い、実証後にはアンケートによりサービスの認知度やサービスの利用状況を調査した
2020年度には
66.4%の方から流行予報の継続配信希望の回答
79.8 %方から、予報配信を受けて感染症予防を意識した行動につながったとの回答
予報配信によって感染症予防のための行動変容を促すことが期待できるアンケート結果が得られた

一方で、新型コロナウイルス感染症の流行により、世の中の感染症に対する意識が変化したため、サービス開始当初と状況が異なっていることから、初めてのアフターコロナに則した感染症対策需要の検証が必要である

認知度・社会需要性の向上

- 各年度のインフルエンザ流行期中（11月下旬～3月下旬ごろ）に実証実験を行い、実証後にはアンケートによりサービスの認知度を調査した
（サービス認知度）
2021年度 32.7%
2022年度 39.0%
2023年度 実証予定なし
- 市公式HP、市公式LINEアカウント、市公式X（旧Twitter）を活用した予報情報等の発信、公共施設等へのチラシの配架を実施した

担当者の声



さいたま市
都市戦略本部
未来都市推進部

- 本市では「公民+学」の連携で、AI・IoTなどを活用して市民のQOL向上を目指す、「スマートシティさいたまモデル」の構築を推進しています。
- 本実証ではインフルエンザの流行予測に取り組みましたが、同時期に新型コロナウイルス感染症が流行したため、予報を受けての行動変容について見えづらい部分がありました。しかし、サービスの認知度が年々上昇していたことから、インフルエンザやその他の感染症に関心を持つ方が増えていることがわかりました。

①流行予測AIを活用した「感染症予報サービス」【AI】

実証実験の紹介

実証概要

【地方公共団体】埼玉県さいたま市

【実証内容】感染症予報サービス

- 「感染症は予報をもとに予防していく」という新しいライフスタイルにより市民QOL向上、市民満足度向上を目指して実証を開始
- 日立社会情報サービスの「感染症予報サービス」を市のHPや公式LINE等を活用し、市民向けに情報発信をした



さいたま市の公式LINEより配信画面

実証

流行予測AIを活用した「感染症予報サービス」の実証実験

【参加事業者等】

- 日立社会情報サービス
- 日立製作所
- 損害保険ジャパン

【実証概要】

- 概要：罹患者数統計データと日立のAI技術の知見を活用した機械学習を用いた予測エンジンによる、インフルエンザ等の感染症の流行状況の予報を行うシステムを活用。さいたま市の情報媒体を活用し、流行予報と併せて予防関連情報も配信し、感染症予防のための行動変容を促すことを目的に実証した
- 期間（R3）2021年11月29日～2022年3月25日
（R4）2022年12月19日～2023年2月20日
- 特徴：「日本医師会ORCA管理機構」の罹患者数統計データ(オープンデータ)と日立のAI技術の知見を活用した機械学習を用いた予測エンジンによる、インフルエンザ等の感染症の流行状況の予報を行うこと

【実証の目的】

- 感染症予報が市民の行動変容につながるかを確認すること

【成果】

- 令和3年度の実証ではサービスの認知率32.7%、令和4年度の実証では39%という結果が得られており、当該年度にインフルエンザの流行は無かったものの、市民への感染症予防に対する意識啓発につながった

【見つけた課題】

- 新型コロナウイルス感染症の流行により、世の中の感染症に対する意識が変化したことにより、初めてのアフターコロナに即した感染症対策需要の検証が必要なこと
- サービス単体ではビジネスモデルとしては成り立たず、収益化にはつながらないこと

【今後の対応方針】

- 外部環境の変化に応じ、世の中の感染症に対する意識の変化に応じ、現状に則した最適な情報発信方法を検討していく
- 社会状況の変化に応じて、行政サービスとしての必要性を踏まえ、本市での事業モデルの検討
- スマートシティサービス構築を目的とする、任意コンソーシアムにおける連携支援



（市公式Xでの発信）